

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2192500011		
法人名	社会福祉法人 清心会		
事業所名	グループホーム 夢の郷		
所在地	岐阜県安八郡神戸町丈六道村西59		
自己評価作成日	平成25年9月8日	評価結果市町村受理日	平成25年11月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

昨年より、敬老会の時期に家族会を開催しており、他の家族様同士の交流や施設での様子などを伝えるなどしている。昨年家族様に好評であったため継続して行う予定である。利用者の思い、家族の思いこうしてほしいなどお聞きして家庭にて生活する当たり前のことを大切に、利用者の主体性を大事にして家族様にご理解いただき「私たちがもうひとつの家族」により一層近づけるよう信頼関係を構築していきたいと考えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosvoCd=2192500011-00&amp;PrfCd=21&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;ji_gyosvoCd=2192500011-00&amp;PrfCd=21&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成25年10月12日

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者は日々の暮らしの中で、利用者個々のできることを細かくアセスメントし、「できることを発揮してもらおう」と利用者の力を活かしながら、援助を行っている。職員も利用者や洗濯物を干したり、食事の準備や後片付け、買い物や花の水やりなど、日々の家事を利用者が力を発揮しやすいように、常に考え話し合いながら一緒に行っている。併設のデイサービスのボランティア行事に、利用者と共に参加している。地域行事への積極的な参加や外出に力を入れ、地域の社会資源を活用し、地域との絆や馴染みの関係を深めるよう支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、夜勤者との申し送り時に法人としての理念、行動指針を唱和している。唱和する事により浸透をはかり、個人の意識づけをしている。	管理者・職員は朝の申し送り時に法人理念と行動指針を唱和し、確認合っているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくるまでには至っていない。	管理者・職員は地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を話し合い、その理念を共有し実践することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、避難訓練など地区の民生委員さん、老人会会長さんなど来て頂き交流をはかっている。また小学生の訪問、中学生の職場体験なども積極的に受け入れている。民生委員さんの訪問もある。	神社のお祭りや文化祭等地域行事を広報で知り、民生委員から情報を聞き、積極的に参加している。自治会に加入し、事業所行事にも参加してもらっている。小中学校や各団体のボランティア等を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんなど地域の方の入居の相談などもたまにある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者も参加して頂き、ありのままのホームを見て頂き理解をして頂くようにしている。毎回事故報告、ヒヤリハット、行事報告などしている。意見なども頂いている。	会議には、利用者も一緒に参加している。災害対策については消防団に参加してもらい地域の協力をえる事やインフルエンザ等感染症予防について等の意見が出され、実践できるよう職員間で話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは、運営推進会議において取組など伝えている。また疑問点なども気楽に尋ねる事ができる。	市町村担当者に現状を報告し、運営上の問題点などを尋ね、常に関係を継続するようにしている。サービス利用料の滞りそうな方の相談や保険外の利用料を含めた利用料金についての相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	環境的に二階にスペースがある為、階段の出入り口は危険な為施錠せざるをえない。家族・利用者さまには理解をえている。その他の拘束はしていない。	外部研修や母体法人で行う身体拘束や虐待防止の研修に参加し、職員に周知している。声かけの仕方や日常のさりげない行為であっても、拘束に繋がらないか、と会議で話し合い、研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の勉強会も実施して再認識を図るようにしている。		

グループホーム夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は今のところ該当者がなく勉強する機会もないため、理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書と契約書を十分に説明し理解して頂いている。疑問があればいつでも質問して頂くようお願いがいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月の運営推進会議、面会時、など機会をもうけている。言いにくいときは、意見箱に入れて頂くようお願いがいている。また契約時には苦情相談窓口の説明もしている。	毎月受診時など、家族の訪問時には声掛けを多くし、意見、要望などを問いかけている。利用者同士の意見のちがいについて、家族から要望を聞き取り、対応し改善がみられた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、意見交換など行っている。法人代表の施設長も出席しており職員の意見も吸い上げるようにしている。	毎月、職員会議を開き、意見や提案を出し合っている。勤務体制、ケアの方法や業務見直しについて話し合っている。職員からの意見で、運営推進会議に家族代表者だけでなく、利用者も参加するようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度より職員の意欲、レベルアップを目的とした人事評価を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事評価を実施することで、一人ひとりの力量を把握し、法人内外の研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があればリーダー研修、認知症実践者研修などにも、積極的に参加する機会をもうけ交流するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住居となる環境を見ていただきながら、家族の情報や要望を丁寧にお聞きし、どのような質問に対しても、親身になってお答えしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いを丁寧に傾聴・受容し、「これからは、一緒に支えていきましょう」と、話させていただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と一緒にホームを見学に来ていただき、ホームの職員や他の利用者とのかわりを通して、ホームの職員の意見も聞きながら、今後の支援等につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること・出来ないこと見極めながら、職員は暮らしをともにする仲間として関わっていく。又、おばあちゃんの知恵袋を引き出しながら、生き生きと楽しい生活を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会・受診の付き添い・外出・面会等ホームに来ていただける機会を積極的に設け、本人と家族の絆を大切にしながら、コミュニケーションをとり、情報の共有を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや散歩等で出かけていって、出先で声が掛かり立ち話したり・風景を楽しんだり、いつでも遊びに来ていただけるよう声かけしています。	職員が働きかけ、家族の協力を得て、馴染みの美容院や墓参りに出掛けている。神社の祭りや文化祭等地域行事に積極的に参加し、知人と出会う機会を作り、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	つじつまの合わない会話・一方的な会話が飛び交い、認識低下の為理解されずトラブルになることもあるが、傾聴・受容し緩衝役となり関わっていくようにしている。		

グループホーム夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され医療関係におられたり、同じ清心会の特養に移動入所された方は、面会に行っている。法人内なので連携が取りやすい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認識低下の為意向を伺えない方も見えますが、日々のかかわりを通して丁寧に傾聴・受容・観察・気づきから把握している。	思いや希望等は、生活歴や日常会話の中で、本人本位を意識して聞いている。把握が困難な利用者は、目線や口の開き方等しぐさや表情を観察して、利用者の意向を尊重するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等の情報をもとに、日々の関わりを通し、時間をかけて丁寧に傾聴・受容・観察・気づきから把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・申し送り等を丁寧にを行うことにより現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期目標の達成度評価(モニタリング)として職員一人一人が評価している。職員一同が集まることは難しいので、ケアマネジャーが個別で聞いている。	ケアマネジャーが全職員にモニタリング結果を聞き、本人・家族、主治医にも意見を聞き、毎月のミーティングで話し合い、介護計画を作成している。処遇に困った時は、家族からの情報をヒントに計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの整合性からも記録にしっかり書いている。申し送り等でしっかり口頭で説明し、職員全員で共有し実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ドライブしたい・外食したい・散歩に行きたい・買い物に行きたい・お祭・文化祭・夏野菜・朝顔等、積極的に利用者の声を大事にしている。ご家族にも参加を呼び掛けている。柔軟な支援・個別支援に取り組んでいる。		

グループホーム夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	春には近くの神社(日吉神社)の祭礼、お釈迦様の花まつりになど出かけている。知り合いなどにふいに出られることもある。秋には神戸町、丈六道の文化祭など見学している。町の広報も毎月頂いているため行事なども事前に確認もできる。又役員さんなどにも尋ねるなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅時からの馴染みの医院に入居後も受診されている方も多く、時に事業所より直接助言を仰ぐこともある。特に処方された薬服用後などの体調の変化などは情報のやり取りが出来、適切な対応がすみやかにできる。	入居前からの主治医に家族の協力で受診し、文書等で体調を説明している。定期的に健康チェックし、体調悪化時などには、直接主治医から指示を仰いだり、疑問点等文書で尋ねてアドバイスを貰ったりしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスには看護師が配置されており、日常的に利用者に変化などある時は報告・助言をもらっている。毎週日曜日には看護師によるバイタルチェックを行って、常に利用者の状態の把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が同行し、直接日頃の状況、状態などを伝え、また介護サマリーなどの提供もしている。時々様子を見に行くなどしている。退院時は担当者会議などで状態を把握し、看護サマリーなどの情報提供も求めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族様の意向も伺いながら、こちらでは看取りの体制ができていないため、早めの入院または法人の特養への入所の提案もしている。ほとんどの方が、法人の特養に申し込みをされている。契約時に看取りはしていない旨を伝えている。	入居時に事業所の方針を説明し、提携の特養の入所申し込みを勧めている。重度化した場合は、早い段階で母体の特養に入所できるよう働きかけている。体調悪化時は、早めの受診や入院を勧め、希望により事業所で出来る限りの対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回は救命救急の講習(AED、心肺蘇生)をおこない、いざという時に実践できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災地震などを想定して、消防署にての指導のもと避難訓練を実施している。地区の民生委員、老人会長様などにも参加を依頼し協力して頂いている。	消防署、民生委員や老人会長、地区の消防団員の協力を得て、夜間や自然災害(火災・地震)を想定した訓練を実施している。緊急時の連絡網の確認を行っている。備蓄などの用意もある。	

グループホーム夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせ笑顔で優しくゆっくりと話しかけています。トイレ・着替え等プライバシーを十分考慮しなければいけない支援は、人目・声のトーンに注意し対応している。	排泄等は耳元で小さな声で声掛けしている。排泄や入浴介助時は、他の利用者に見えないように、必要以上に触れないように気を付けている。扉の開閉方法など職員間で話し合い、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から、どの様にしたいのか本人の所思い・要望等伺うようにしている。職員は、傾聴・受容に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に沿って、健康状態を考慮しながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で自主的におしゃれ・身支度できる方もみえます。出来ること・出来ないことを職員が把握して、汚れ・しみがあれば着替えていただき・櫛を入れたり・化粧水・乳液の準備をすれば顔にパタパタつけられる等支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	BGMを流し落ち着いた雰囲気の中食事をとっていただいています。翌朝の食事作り・配膳・片付け等職員と一緒にしています。	利用者と会話しながら一緒に食事をしている。配膳から下膳、おかず作りなど、野菜を切ったり、味見をしたり、利用者の出来る事を探し、一緒に行っている。メニューを伝えると切り方を教えて貰う等、利用者自身の力を引き出すよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は法人の栄養士や厨房業者の栄養士で献立をたてている。相談もできる。一人一人に合った食形態で提供している。水分は一日1000ccを目標に好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて口腔ケアしていただいています。夜間、ポリデントでの洗浄施行		

グループホーム夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用は無し。排泄のパターンに合わせた声かけ支援している。布ショーツ+生理用パットでの対応に向け支援している。	入居時にアセスメントし、様子を見ながら支援している。職員は利用者の快適さを考え、トイレ誘導の回数を増やし記録も細かくとっている。出来るだけショーツを使い、パットも厚いものから薄いものへ変更できるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取を(1000cc)十分取っていただくようにしている。便秘時は牛乳・ヨーグルト等積極的に摂っていただく。各自、主治医から下剤の処方していただいている。運動への働きかけとして、散歩等声かけ支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望に沿うようにしているが、サイクル等決まってきてしまう。入浴剤使用している。「いい香りね～」と、話される。リラックスされて入浴を楽しまれている様子。	1対1でゆっくり会話をしながら、入浴の回数や湯温など希望を聞き、出来る限り希望に沿うよう心掛けている。入浴をためらう利用者には、なぜ嫌がるようになったのか、ミーティングで話し合い、対応を改善した事例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調等に合わせ、午前・午後休息時間を取っている。レクリエーションのボランティアが訪問しているときは、ご本人の希望で参加するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者のファイルに薬情書があり、職員が周知している。処方の変更になったり、新しい薬が処方された時は、申し送りノートに記載し皆で周知する。又、新しい薬情書に取り換える。症状の変化があるときは、即、ドクターに連絡し指示を仰ぐ。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・居室の掃除・食事作り・メニューを書いて食事の前に読んで皆さんに伝える・盛り付け・毎月のカレンダー作り・季節の壁飾りの手伝い・デイサービスでのレク参加等一人一人の希望・力に合わせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調等考慮してドライブ・喫茶店・買い物・近所の散歩・地域の行事等にも積極的に参加。家族や地域の人々に呼び掛けて絆や馴染みの関係を深める支援をしている。	地域の行事に出かけたり、気候の良い時などは日常的に近所に散歩に出かけたりしている。近所のお店と一緒に歩いて買い物に出かけたり、利用者全員で外食やドライブ、喫茶店など季節に応じての外出を工夫している。	

グループホーム夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出等お誘いしても躊躇される。「お金貸してくれる。必ず返すから」「お賽銭が無いの」と、心細さや・不安を訴えられることがあります。基本的に管理はホームでしています。「預かっていますのでご心配はいりませんよ。いつでもお出しできますから。」と、声かけしている。買い物等は同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には、職員が取り次いでいる。他者に気を使われる事のないように、事務所でお話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、手作りカレンダー、壁には利用者さまの手作りの季節の折り紙写真などを掲示して季節感を出し居心地の良い空間になるよう努力している。	廊下には季節の花、リビングには利用者の行事写真や作品を飾り、日常的話題になっている。食事メニューを利用者に書いてもらい、食事前に紹介してもらうことで利用者の役割を作る配慮をしている。座布団などで高さを調整し、利用者が姿勢良く座れる工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには三人掛けのソファが1か所に置いてあり、ゆったりとくつろげるように工夫している。気が合う方同士が座りお喋りをしている光景も見られる。また一人になりたい時など、居室以外にサンルームの空間も用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、自宅での使いなれた馴染みの物を持参して頂く事も勧めている。個性的な家具など持ち込まれているかたもある。家族の写真なども飾るなどされている。	居室には、テレビ、ソファ、パッチワークの壁掛け、家族の写真、手作りカレンダーなど利用者や家族が思い思いの物を持ってきてもらうように声かけしている。利用者が若い頃に作成した家具の数々を、季節毎に持ってきている家族もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉には名札、花など目印になるものを掲示するなどしている。トイレも大きく表示して迷う事がないように配慮している。		